

なし管理情報 No.6

令和8年7月16日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 「幸水」の生育概況

満開93日後(7/14)の果実横径は、68.6mmと前年、平年に比べ大きい(前年比103%、平年比107%)。日肥大量1mm以上となる肥大最盛期は、平年より早い7/7頃から始まったと思われる。

2 病虫害防除

＜発生状況＞

- ・黒星病：7月中旬(7/13)の発病果そう率は10.8%で、前年、平年より高い(別紙)。
- ・ナシヒメシンクイ：トラップへの誘殺数は平年より多いが、果実被害は確認されていない。
- ・チャバネアオカメムシ：トラップへの誘殺数は、5～6月は平年より多かったが、7月以降誘殺数は少ない。
- ・ハダニ類：7月上旬まで未確認。

＜防除のポイント＞

- ・自園地の黒星病、害虫の発生状況をこまめに観察し、発生状況に応じて、下記の特別散布を実施する。

＜薬剤防除＞

回数	散布時期 の目安	散布薬剤と希釈倍率	10a当り 散布量	対象病虫害	実施日 (自己 記入)
-	7月下旬	ナシヒメコン	50本 /10a	ナシヒメシンクイ	
特 散	<u>ハダニ類 発生時</u>	マイトコーネフロアブル 1,000倍 (収穫前日まで)	350 ㍓	ハダニ類	
14	7/29 ～31 (幸水 収穫前)	アグロスリン水和剤(★) 2,000倍 (収穫前日まで) または サムコルフロアブル10 5,000倍 (収穫前日まで) ★ <u>ハダニ類の発生が見られる園では、サムコルフロアブル10を散布する</u> (アグロスリン水和剤はハダニ類の天敵に影響があるため) ★ <u>黒星病の発生が多い園では、オーソサイド水和剤80(1,000倍、</u> <u>※収穫3日前まで、9回以内)を加用する。</u> ※収穫前日数に注意	350 ㍓	<u>シンクイムシ類、カメムシ類</u> ハマキムシ類、アブラムシ類 <u>シンクイムシ類、</u> ハマキムシ類、ケムシ類	

- ・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意する。
- ・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用する。

(1) 黒星病対策

現在、平年より発生が多い状況であり、また、「幸水」で黒星病に感染しやすい肥大最盛期を迎えている。肥大最盛期が終わるまで（8/4頃まで）の散布間隔は、7～10日間を目安に降雨前散布を心掛け、十分量を散布したうえで、以下の対策を徹底する。

- ・ 罹病果・罹病葉の処分（最重要！）：黒星病は、降雨後15日程度の潜伏期間を経て発病することから、黒星病が発生している園地では、収穫まで園地を見回り、罹病果、罹病葉の摘み取りを徹底する。
- ・ 薬剤の特別散布：黒星病の発生が多い園（平年より発生が多い園）では、14回目の防除にオーソサイド水和剤80（1,000倍、収穫3日前まで、9回以内）を加用するとともに（防除暦に記載はないが、本年の黒星病の発生が多いため）、「幸水」収穫後にナリアWDG（2,000倍、収穫前日まで、3回以内）を必ず散布する。
- ・ 園地周囲の補正散布：SSによる防除は園地外周部に死角がしやすいため、補正散布を徹底する。



(2) 木材腐朽菌対策

- ・ なし樹にきのこ（子実体）の発生を確認した場合は、早めにきのこを除去して園地外で処分し、きのこからの孢子の飛散を防ぐ。
- ・ 腐朽部分は、削り取り、保護殺菌剤を塗布する。

(3) カメムシ類対策

- ・ カメムシ類の被害果が多い場合や日中の園地で成虫を複数確認した場合は、アグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで、3回以内）を特別散布する。

(4) シンクイムシ類対策

- ・ ナシヒメコンの設置：設置方法はコンフューザーNと同様である。外装のアルミフィルムを開封したまま放置すると有効成分が揮散するため、必ず使用直前に開封し、使い切る。
- ・ 殺虫剤の散布：今年は、ナシヒメシンクイのトラップへの誘殺が平年より多いことから、「幸水」収穫前後に殺虫剤の散布を必ず実施する。
※薬剤は、他の害虫の発生状況に応じて選択する。

(5) ハダニ類対策

- ・ ハダニ類は、高温乾燥条件で急激に増加する。
- ・ ハダニ類の発生を確認次第、マイトコーネフロアブル（1,000倍、収穫前日まで、1回）を特別散布する。
※マイトコーネフロアブルは、サムコルフロアブル10、オーソサイド水和剤80と混用可能

3 今後の管理ポイント

(1) 収穫準備

- ・ 今年の「幸水」の収穫開始は、前年、平年より早い8月上旬頃と予想される。収穫の1週間ほど前から試し取りを行い、自園地の収穫適期の把握に努める。

(2) 着果管理

- ・ 着果量が多い樹は、裂果の程度を確認しながら、補正摘果で着果量を調整する。

(3) 新梢管理

- ・ 予備枝や陰芽から発生した新梢は、7月（新梢伸長停止後）に誘引し、花芽の着生を図る。ただし、着果不足等で新梢の伸長が旺盛な樹は、芽かきや夏季剪定を行い、受光環境を良好に保つ。

(4) 土壌水分管理

- ・ 高温乾燥状態が続く場合は、ほ場が乾燥しないよう5～7日間隔で朝夕の涼しい時間帯にかん水を行う。なお、「幸水」の収穫期に近づいてからのかん水は、糖度低下の懸念があるため控える。

(5) 強風対策

- ・ 台風による強風に備え、防風網、果樹棚等の点検、補強を行う。

(6) 今後の気象

- ・ 向こう1ヶ月（7/11～8/10）は、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。1ヶ月通しての気温は平年に比べ高い、降水量は平年並～少ないと予報されている（新潟地方気象台7月9日発表）。かん水、台風を含めた今後の気象情報に注意し、天候に応じた対策を実施する。

4. 熱中症対策

(1) 暑さに備える体温管理

作業を始める直前に冷たい飲み物や冷やしたタオルで体温を下げる。

(2) 休憩と水分・塩分補給

暑さや作業内容にあわせて、こまめに休憩をとる。休憩時や作業中にも適宜水分補給を心がける。

(3) 単独作業を避ける、熱中症対策アイテムを活用

熱中症は早期発見、対処が大切であり、極力単独の作業は避ける。また、空調服やネッククーラー等の体温を下げる効果のあるアイテムを活用する。

<お知らせ①>

- ・ 黒星病調査を8月初旬（収穫直前）と8月中下旬（収穫中）に行います。

<お知らせ②>

- ・ 次号は、8月下旬（幸水の収穫終盤）の発行を予定しています。